



山の言葉

それでも、母親は息子を訪ね続けた。
町の因われ人となった
我が息子。
来る日も来る日も、
畦道を歩き、上り坂を息切らせながら、
峠を越えて。

沈黙する母親に、
息子は静かな口調で語りかける。
おかあさん、ここではもう山の言葉は
話せないのです。

白い表情の息子に、
母親は憤りとも聞こえる調子で叫ぶ。
おまえ、鳥のさえずり、虫の声までも
忘れてしまったのかい。

たまたま、傍らにいたひとりの住人が
ぶっきら棒に言い放つ。
山の言葉は禁止されたんじゃないよ、
消えて亡くなったのだよ。
次には、抑制された興奮をもって、
やっと言葉はひとつになった。
こんな素晴らしいことはないじゃないか。

皮肉なことに、その瞬間、
息子は気がついたのだった。
記憶の間から、もう一度、
山の言葉とその原風景を捜し出さねば、と。
山の言葉を携えて、もう一度、
この町のすみずみを散策してみよう、
母の手を引いて。

ジョージ・シーガル
(George SEGAL: 1924~)

煉瓦の壁

国立国際美術館所蔵(吹田市)

■経歴

1924年、アメリカに生まれる。1948年から49年にかけてニューヨーク大学に学ぶ。1956年、ニューヨークのハンザ画廊で最初の個展を開催し、抽象表現主義の影響を受けた絵画などを出品する。1962年、石膏直接型どりによる人体彫刻作品を発表する。さらに1971年には、石膏直接型どりを鑄型とする内部型どりによって人体彫刻を制作。画家出身という経歴を生かした彼の彫刻は、日常生活の白々しさを極めて絵画的に表現している。